

「メディアがつくる違和感」

2011年1月15日(土)

13:00~16:30

リバティタワー1階1012教室

13:00-13:45

●セッション1 : 池上高志 × 岡 瑞起 「動く城プロジェクト～時間と空間の再フォーマット～」

13:45-14:30

●セッション2 : 李 明喜 × 南後由和 「都市とメディアの間～読み取りと書き換えのフィールド～」

(休憩 15分)

14:45-15:30

●セッション3 : 宇野良子 × 河村美雪 × 岡 瑞起 「絡まる無意識と言葉～越境の違和感～」

15:45-16:30

●全体ディスカッション・質疑

岡瑞起 Mizuki Oka

1980年生。筑波大学大学院システム情報工学研究科修了。博士(工学)。2008年より東京大学知の構造化センター、特任研究員。専門はウェブ工学とHCI。2009年にpingpongプロジェクトを立ち上げ、プロジェクトリーダーを務める。2009年度下期IPA未踏クリエイター。

李明喜 Myeong-hee Lee

1966年生。デザインチームmattキャプテン。空間デザイナー、ディレクター。2009年よりpingpongプロジェクトのディレクターを務める。合同会社コンテクチュアズ(contectures, LLC.)代表。

池上高志 Takashi Ikegami

1961年生。複雑系研究者。理学博士。東京大学大学院総合文化研究科、広域科学専攻、(広域システム科学系)教授。コンピュータのシミュレーションや化学実験などによる構成論的なアプローチから「生命とはなにか」を問い続け、新たな生命理論の構築を目指す。著書に『動きが生命をつくるー生命と意識への構成論的アプローチ』、共著に『複雑系の進化的シナリオ』『東京大学公開講座 ゲーム』ほか。

南後由和 Yoshikazu Nango

1979年生。東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。2008年より東京大学大学院情報学環助教。専門は社会学、都市・建築論。桑沢デザイン研究所、駒澤大学、法政大学、早稲田大学非常勤講師。

宇野良子 Ryoko Uno

1973年生まれ。認知言語学者。東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修了。博士(学術)。現在は、東京農工大学大学院・言語文化科学部門・専任講師。

言葉は情報を伝えるためだけでなく、相手と場を共有していることを確認するために用いられるのだ、という観点から、文法の構造を分析している。近年は、人工生命や自然言語処理などとの共同研究で、言語のダイナミズムを扱う新しい方法論の構築を目指している。著書「Detecting and Sharing Perspectives Using Causals in Japanese」(ひつじ書房、2009)。

河村美雪 Miyuki Kawamura

アーティスト。2000年のブラジルでの企画展覧会をきっかけに各地で映像、ハプニング、インスタレーション、パフォーマンス、映像、インタビュー作品を国内外で発表。2006年にアートパフォーマンスカンパニー「Co.うつくしい雪」を設立し、インタビュー・ショーを発表。以後、言葉、動き、記憶、時間、空間を扱い、イマ・ココで作り替えられ続けている外側と心の相互作用を通して「世界の見え方が変わる瞬間」を作る。2008年より認知言語学との共同ワークショップを不定期に宇野良子氏とスタート。